

リテール事業部門



執行役専務
リテール事業部門長
田村 直樹

銀行・証券・カード・コンシューマーファイナンス、それぞれの業界におけるトップクラスの企業が個人のお客さまのあらゆる金融ニーズにお応えすべく、グループ一体となってビジネスを展開し、お客さまから最も信頼される「No.1の総合金融サービス業」を目指しています。

SMBCグループのリテール事業部門は、主要分野で国内No.1の事業基盤を誇り、お客さま数は4,300万人、従業員数は5万人に上ります。1,800兆円を突破したわが国の個人金融資産は「貯蓄から資産形成」への流れが限定的なものにとどまっており、まだまだ巨大な未開拓のマーケットが残っています。また、わが国のキャッシュレス決済比率は諸外国に比べて依然低く、ここにも未開拓の大きなマーケットがあります。低成長が続くわが国において、リテールビジネスは市場拡大が見込まれる貴重な領域であるといえます。お客さま本位の資産管理型ビジネスへの転換、デジタル化進展を踏まえたキャッシュレス戦略への取組、お客さまの利便性向上とコスト構造改革の両立を狙いとした店舗改革等、時代をリードする先進的なビジネスモデル改革に積極的に取り組み、クオリティを伴ったNo.1を目指していきます。

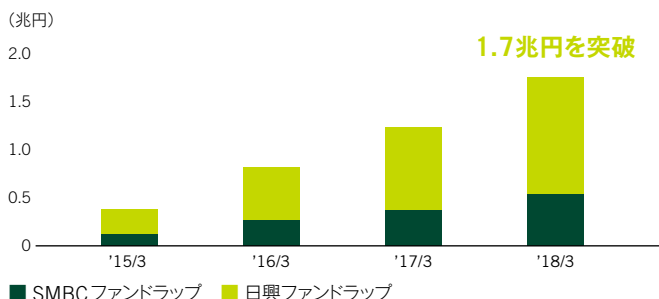
2017年度の振り返り

運用商品の販売や、クレジットカードビジネスが好調に推移した上、グループベースでのコストコントロールを徹底し、経費率が改善したことから、連結業務粗利益は前年度比342億円増の13,115億円、連結業務純益は同214億円増の2,995億円、ROEは7.5%となりました。資産運用ビジネスでは、いち早く中長期分散投資を軸とした安定的な運用提案を行うお客さま本位の運用ビジネスへの転換を進めてきたことで、ストック収益資産残高が順調に増加し、相場環境に左右されないベースの収益力が付いてきました。また、コスト構造改革の一環である店舗改革も、103カ店の次世代店舗化を完了し、お客さまの利便性向上とコスト削減に向けた取組が順調に進んでいます。

	2017年度	前年度比*1
業務粗利益	13,115億円	+342億円
経費	▲10,275億円	▲161億円
(経費率)	78.3%	△0.8%
業務純益	2,995億円	+214億円
ROE*2	7.5%	—
リスクアセット*3	13.8兆円	—

*1 金利・為替影響等調整後 *2 規制強化を踏まえたリスクアセットに基づく内部管理ベース。また利息返還損失引当金繰入や店舗改革関連の費用処理による影響を含まず *3 現行規制ベース

ファンドラップ残高（三井住友銀行+SMBC日興証券）



店舗改革進捗状況

	2017年度実績	2018年度目標	...	2021年度目標
事務効率化に伴う事務人員の削減	△7億円	△23億円		△100億円
店舗面積の圧縮等に伴う賃料の削減	△16億円	△52億円		△100億円
営業経費等への波及効果	△8億円	△41億円		△100億円
合計	△31億円	△116億円		△300億円

重点戦略

■ 資産運用ビジネス

中長期分散投資を軸とした運用提案の継続とグループベースでの富裕層の開拓・取引強化に注力していきます。三井住友銀行でのファンドラップやバランスファンド等、分散投資に資する商品の販売比率は6割を超え、着実にお客さま本位の運用ビジネスは浸透しています。2018年度もこの取組を継続し、ストック重視の運用ビジネスを定着させていきます。また、SMBC日興証券のソリューション提案強化や三井住友銀行の相続・承継コンサルティング強化により、富裕層の多岐にわたるニーズを捉え、開拓・取引強化を図っていきます。

■ 決済・コンシューマーファイナンスビジネス

決済ビジネスでは、2017年度に2種類の非接触IC決済に対応したキャッシュカード一体型デビットカードを日本で初めてリリースしました。コンシューマーファイナンスビジネスでは、一層の利用者保護に向け、三井住友銀行における広告宣伝の抑制・与信厳格化等、健全な資金ニーズの取込強化に取り組んできました。

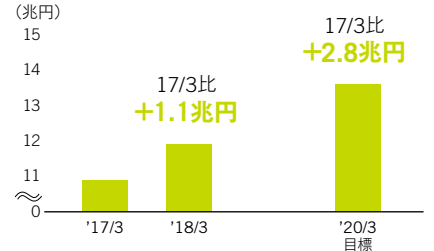
2018年度も引き続き、お客さま本位をベースに決済・コンシューマーファイナンスビジネスの強化に取り組んでいきます。

■ コスト構造の改革：店舗改革への取組

銀行の店舗は、お客さまの利便性向上とコスト構造改革の両立を狙いとして「お客さまへのサービス提供の仕方を変える」「事務プロセスを変える」「店舗の在り方を変える」、この3つの改革を同時並行で進めています。

2017年度は、従来は申込が必要だったインターネットバンキング「SMBCダイレクト」の標準搭載等、デジタル化によるサービス提供方法を変えたことで、SMBCダイレクトの利用者数、利用率は大幅に増加しました。2018年度もデジタルライゼーションの徹底を通じてお客さまの利便性向上とコスト削減を推進していきます。

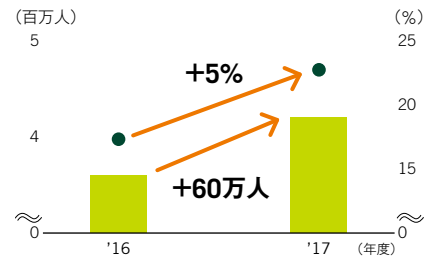
ストック収益資産残高 (三井住友銀行+SMBC日興証券)



非接触IC決済機能付き キャッシュカード一体型デビットカード



SMBCダイレクト利用者数*4 / デジタルチャネル利用率*5



*4 SMBCダイレクトに半年で1回以上ログインした顧客数
*5 デジタル利用顧客/(店頭利用顧客+デジタル利用顧客)

SDGsへの取組

デジタルライゼーションへの取組を通じ、キャッシュレス・ペーパーレスな取引を推進することにより、温暖化対策につなげていきます。

資産運用ビジネスにおいては、投資初心者を含めた幅広いお客さまへの中長期分散投資を軸とした運用提案を通じて金融リテラシーの向上に貢献するとともに、技術革新や新興国に投資する商品を導入しました。

➡ SMBCグループのSDGsへの取組については、P59をご参照ください。



- キャッシュレス・無通帳取引
- タブレット電子約定
- 金融リテラシー向上
- ESG投資信託

